

「今和泉小学校の棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

指宿市立今和泉小学校

2 学年・人数

5年生 13人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所（※印は、例年実施している時期及び場所）

新型コロナウイルス感染症予防のため、本年度は未実施

※小牧地区…7月中旬から敬老会前まで小牧営農研修センターで練習

※岩本地区…夏休み中に今和泉校区公民館で練習

※新西方地区…夏休み中に新西方中央公民館で練習

(2) 発表の日時・場所

新型コロナウイルス感染症予防のため、本年度は未実施

※例年3年に1度、3地区持ち回りで秋季大運動会時に披露

※小牧地区と岩本地区は敬老の日の「敬老会」で披露

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

- ・ チョイノチョイ（瀬崎・小牧地区）
- ・ 岩本棒踊り（岩本地区）
- ・ 新西方棒踊り（新西方地区）

(2) 由来

チョイノチョイ

第17代当主の島津義弘が、1592（天正20）年からの文禄の役と、1597（慶長2）年からの慶長の役に参戦した際、無事に凱旋した祝いとして踊られたといわれている。

岩本棒踊り

江戸時代、第21代島津家当主島津吉貴の子、因幡三郎忠郷は今和泉の地が気に入り、島津家の分家領地としてもらい住み、日常の雑事などは漁民・商人ではなく農民を登用した。そのため、農民たちからの敬愛の念は厚かった。農民たちが病弱な領主を慰めるために踊った。

新西方棒踊り

田植え前後の豊作祈願であったらしいが、その後、神社の祭りや諸行事で踊られるようになった。

(3) 構成等

チョイノチョイ

2人1組の前後2列で踊る。左側は赤色の帯、右側は黄色の帯をつける。腰を低くして膝とももを高く上げたり、扇と刀を持つ手を高く上げたり、また、両手を広げながら回る所作が特徴的である。

岩本棒踊り

三尺棒と六尺棒の2種類を使って踊る。三尺棒同士が打ち合う場面や六尺棒に持ち替える場面、棒同士を払いのける場面などペースが速い踊り

が特徴である。

新西方棒踊り

六尺棒と三尺棒を持った6人が1組となり、前後左右に入れ替わりながら、棒を打ち合う。衣装に白色・赤色・青色の3色のたすきをかけ、激しく踊るとたすきも激しく揺れ、とても魅力的である。

5 保存会や地域との連携の具体

それぞれの地域の保存会が中心となって練習等を計画し、活動を行っている。学校での郷土芸能学習の際は校区公民館主事に依頼し、保存会の方に来校していただき、講師として学習を進めている。

6 文化財伝承・活用の取組で工夫した点

5年生の総合的な学習の時間に地域の郷土芸能の学習が位置付けられている。保存会の方に由来や道具の意味、踊りを続ける意義など教えていただいた。聞いたことをまとめ、発表を行った。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）

ここ2年、練習や披露ができていないため、2017（平成29）、2018（平成30）年の運動会で披露した様子を紹介する。



<2017（平成29）年 秋季大運動会> <2018（平成30）年 秋季大運動会>

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【5年生児童】

最初、手本を見たときに難しそうだった。みんなで落ち着いてじっくりペースを合わせながら練習したことで、だんだん慣れて、上学年にもついていけるようになった。思ったよりも楽しくできた。

棒踊りの歴史を知り、昔から行われてきたことや今も受け継がれていることに気付き、僕たちもしっかり学んでいかなければいけないと思った。

【教職員】

ここ3年、感染症拡大防止のため実施できていないが、毎年各地区で伝統を引き継ぐために、練習に取り組んでいただけていることに感謝している。今年度も保存会の方に児童が知りたいことを丁寧に話していただいた。昔から続く大切な伝統を守り、後世にも伝えていきたいという保存会の方の強い思いを感じることができた。子供たちも地域に伝わる伝統に誇りを持ち、自分たちがつなぎ、受け継いでいくんだという思いをもったようだった。

【保存会から】

今和泉の子供たちに自分たちの地域に伝わる踊りのことを知ってほしい。そして、昔から伝わってきた踊りは地域の人たちにとって大切なものだから、多くの人に知ってもらいたい。そして、地域に住む子供たちに伝え、これから先もずっと受け継いでいってほしい。